

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は、平成26年度から「高大連携重点型」工科高校として再出発し、「工学系・大学進学専科」を1クラス設置した。さらに、本年度入学生からは、工科高校のさらなる魅力づくりを踏まえ、学習内容の充実を図るとともに、1クラス35人編成による一層きめ細かな指導を行う。

本校がこれまで培ってきた伝統や教育活動を踏まえ、スローガン（標語）である「生徒が主役！ - 生徒の力を伸ばし、確かな進路を実現 - 」を掲げ、ものづくり人材の育成を図るため、育成する生徒像を以下に示す。

- 1 ものづくりに興味・関心をもち、基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、活用できる生徒。
- 2 自ら課題を見付け出し、思考力・判断力・表現力等を駆使し、チームワークで解決を図ることができる生徒。
- 3 工業人として高い倫理観と責任感をもち、生涯にわたって人間性の向上に努め、社会や人生に学びを生かそうとする生徒。

2 中期的目標

1 「確かな学力」の育成と授業改善

(1) 授業の質の向上を図り、基礎的・基本的な学力と学習意欲の喚起を促すPDCAサイクルを構築し、授業改善に取り組む。

- ア 生徒の実態を把握し、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図り、「魅力ある授業」「わかる授業」を推進する。
- イ 英語の4技能（「読む・聞く・話す・書く」）をバランス良く指導し、国際的な視野を有する技術者を育成する。
- ウ 教員の授業力向上のため、教員・保護者の授業見学や研究授業を行い、授業改善の取組みを推進する。
- エ 家庭学習の定着と、読書活動を推進できるように学校図書館機能の充実を図る。
- オ 教室の無線LAN整備を図り、ICT授業が促進できる環境整備を整える。

授業アンケートの質問9（平成29年度80.8%、平成30年度80.3%、令和元年度79.3%、H28～R1平均79.9%）を、令和4年度には82%以上にする。

学校教育自己診断（生徒）の「授業の工夫等」（平成29年度55.0%、平成30年度48.0%、令和元年度47.5%、H27～R1平均50.0%）を、令和4年度には53%以上にする。

「高校生のための学びの基礎診断」認定ツールの一つある教育産業の基礎力調査（平成29年度216.3点、平成30年度212.3点、令和元年度209.5点、H27～R1平均212.4点）を、毎年210点以上維持する。

学校教育自己診断（生徒）の「家庭学習者の増加」（平成29年度26.0%、平成30年度21.5%、令和元年度23.0%、H27～R1平均22.2%）を、令和4年度には25%以上にする。

学校教育自己診断（生徒）の「図書館機能の充実」（平成29年度62.5%、平成30年度55.0%、令和元年度63.5%、H27～R1平均58.5%）を、令和4年度には60%以上にする。

学校教育自己診断（生徒）の「ICT機器を活用した授業」（平成29年度54.5%、平成30年度47.5%、令和元年度50.0%、H27～R1平均44.5%）を、令和4年度には55%以上にする。

(2) 「ものづくり教育」を通じて、意欲をもって学習に取り組む生徒を育成する。

- ア 生徒が望ましい勤労観・職業観を身に付けるため、企業や大学等と連携を行い、キャリア・パスポートを活用したキャリア教育・職業教育の充実を図る。
- イ 生徒が様々な資格に挑戦できるよう、日々の学習活動や放課後に指導を行い、頑張る生徒を支援する。
インターンシップ参加者（平成29年度42名、平成30年度32名、令和元年度35名、H27～R1平均37.6名）を、学級減を踏まえて令和4年度には40名以上にする。
学校教育自己診断（生徒）の「実習授業満足度」（平成29年度77.5%、平成30年度72.0%、令和元年度71.0%、H27～R1平均74.1%）を、令和4年度には76%以上にする。
資格取得者の増加を図り、全国工業高等学校長協会（全工協会）で資格取得に応じて点数化されて、その合計点により顕彰されるジュニアマイスター制度を奨励し、ゴールド[G]・シルバー[S]・ブロンズ[B]の取得者（平成29年度G4・S8、平成30年度特別1・G4・S7・B2、令和元年度G3・S5・B4、H27～R1平均G3・S6、B3）を、学級減を踏まえて令和4年度には平均以上にする。

2 夢と志をもつ生徒の育成

(1) 豊かでたくましい人間性の育成。

- ア あらゆる教育活動における人権教育と、生徒の発達段階に応じた学年別人権教育の充実を図る。
- イ いじめ対応や支援教育の充実のために教育相談体制の機動性を高め、学習支援活動の充実を図る。
- ウ 生徒にマナーの向上とルールを厳守させ、問題行動の防止や遅刻件数・転退学率の減少に努める。
- エ 情報リテラシーを育成するため、情報モラルやセキュリティに関する教育の充実を図る。
- オ 部活動加入を推奨し、「部活動に係る活動方針」に則った活動と、環境整備や安全対策の強化を図る。

学校教育自己診断（生徒）の「人権教育等の充実度」（平成29年度54.0%、平成30年度47.0%、令和元年度55.5%、H27～R1平均49.5%）を、令和4年度には52%以上にする。

学校教育自己診断（生徒）の「先生の相談対応」（平成29年度60.0%、平成30年度52.0%、令和元年度52.5%、H27～R1平均53.5%）を、令和4年度には55%以上にする。

問題行動指導（平成29年度11件・29名、平成30年度7件・16名、令和元年度21件・32名、H27～R1平均12件・28名）を、令和4年度には件数を一桁台にする。

遅刻件数（平成29年度3,268件、平成30年度3,761件、令和元年度2,750件、H27～R1平均3,773件）を、令和4年度には2,300件以下にする。

転退学率（平成29年度2.01%〔転学1.06%、退学0.95%〕、平成30年度1.72%〔転学0.75%、退学0.97%〕、令和元年度2.20%〔転学1.21%、退学0.99%〕、H27～R1平均2.05%〔転学1.09%、退学0.96%〕）を、令和4年度には1.8%以下にする。

学校教育自己診断（生徒）の「授業スマホ等のマナー」（平成29年度49.0%、平成30年度57.5%、令和元年度56.5%、H27～R1平均50.3%）を、令和4年度には55%以上にする。

部活動加入率（平成29年度66.8%、平成30年度64.7%、令和元年度62.4%、H27～R1平均66.1%）を、令和4年度には66%以上にする。

(2) 生徒の自己実現に向けた支援を図る。

- ア 進路実現に向けた分掌・学年・教科の連携を深め、生徒の自己実現に向けた指導の充実を図る。
- イ 就職・進学希望者等の多様な進路希望の実現を図るため、きめ細かな進路指導を行う。
- ウ 卒業3年後の離職率調査を実施し、就職指導に生かす。
- エ 大学進学者への学習状況調査を実施し、進学指導に生かす。

学校教育自己診断（生徒）の「進路に関する行事の充実」（平成29年度70.0%、平成30年度67.5%、令和元年度65.0%、H27～R1平均66.8%）を、令和4年度には70%以上にする。

就職一次合格率（平成29年度83.6%〔工科平均84.8%〕、平成30年度84.9%〔工科平均86.1%〕、令和元年度86.8%〔工科平均86.3%〕、H27～R1平均84.0%〔工科平均84.1%〕）を、毎年工科平均以上にする。

就職希望者内定率（平成29年度100%〔220名〕、平成30年度100%〔203名〕、令和元年度100%〔207名〕、H27～R1平均100%）

大学進学希望者実現度（平成29年度98.8%〔82/83名〕、平成30年度93.6%〔44/47名〕、令和元年度92.7%〔38/41名〕、H27～R1平均95.2%）を、令和4年度には共に100%にする。

3年後の離職率（平成26年度入社24.5%、平成27年度入社23.8%、平成28年度入社29.4%、H24～H28入社平均23.8%）を、令和元年度入社には21%以下にする。

3 信頼される魅力ある学校づくり

(1) 広報活動の充実を図り、志願者の安定的確保を図る。

- ア 中学校訪問や出前授業、学校説明会の精査・充実を図る。
- イ 地域の小・中学校等との連携を深め、工科高校の理解と学校活性化を促進する。

ウ 中学卒業生が減少する中、入学者選抜の志願者倍率を総合募集・工学系ともに1倍以上確保する。
 幼・小・中学校との連携（平成29年度7回、平成30年度7回、令和元年度7回、H28～R1平均6.5回）を、令和4年度には8回以上に
 する。
 志願倍率（平成29年度〔総合〕0.88倍〔工学〕1.63倍、平成30年度〔総合〕0.96倍〔工学〕1.28倍、令和元年度〔総合〕1.02倍〔工
 学〕1.48倍、H27～R1平均〔総合〕0.97倍〔工学〕1.46倍）を、毎年総合募集・工学系ともに1倍以上確保する。

(2) 工業高校生対象の大会等へ参加し、全国大会出場と上位結果をめざす。
 ア 旋盤・電気工事・電子回路組立などものづくり大会へ参加や、課題研究作品をコンテストに応募するなど、全国大会出場や入賞をめざす。
 イ マイコンカーレース・ロボット相撲大会・パソコン甲子園等に参加し、全国大会出場や入賞をめざす。
 高校生ものづくり大会旋盤部門（令和元年度近畿大会優勝・全国大会出場（9年ぶり） H27～R1近畿大会連続出場）を、毎年近畿大会優
 勝・全国大会出場をめざす。
 全工協会の高校生技術・アイデアコンテスト全国大会（令和元年度2作品「佳作」、平成30年度2作品「優秀賞」「理事長特別賞」受賞）
 に課題研究作品を応募し、上位入賞をめざす。

(3) 工科高校のさらなる魅力づくりを推進するため、学校組織の改善を図る。
 ア 五役会（校長・教頭・首席・指導教諭・事務長）で学校課題を分析・検討し、解決に向けて迅速な対応を図る。
 イ 令和4年度に向けたさらなる魅力づくり・学習内容の充実のため、PTを組織して先行する工科高校3校を参考に、計画の策定・運用方法
 の検討を進める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確 かな 学 力 の 育 成 と 授 業 改 善	<p>(1)学力の定着と、 授業改善 ア 「魅力ある授 業」「わかる授 業」の推進 イ 英語の4技能 指導による技術 者の育成 ウ 教員・保護者 の授業見学や研 究授業等による 授業 エ 家庭学習と学 校図書館機能の 充実 オ 無線 LAN 整備 と ICT 授業の促 進</p> <p>(2)ものづくり教 育による生徒育 成 ア キャリア教 育・職業教育の 充実 イ 資格取得への 支援</p>	<p>(1) ア・「主体的・対話的で深い学び」の実現を 図り、「魅力ある授業」「わかる授業」を 推進する。 ・基礎学力調査等による生徒学力定点観測・ 分析を行い、教科指導に生かす。 イ・1, 2年生で英語学力調査を実施し、4 技能の分析を行い、英語教育の指導に生 かす。 ウ・教科ごとの公開研究授業を実施。教員・保 護者の授業見学、授業改善の取組みを進 める。 エ・家庭学習の定着とともに、学校図書館機能 の充実を図る。 オ・教室の無線 LAN 整備を図り、ICT 授業の促 進を図る。</p> <p>(2) ア・企業や大学等の連携を行い、授業・HR 等 においてキャリア・パスポートを活用し たキャリア教育・職業教育の充実を図る。 イ・様々な資格取得を組織的に進め、生徒の付 加価値を高める。</p>	<p>(1) ア・授業アンケートの質問9 「授業満足度」81%以上 (R1:79.3%) ・学校教育自己診断「授業の 工夫等」平均51%以上 (R1平均 47.5% : 1年 52%、3年43%) ・生徒の経年値学力の変化検 証 入学時の教育産業の基礎 力調査(国数英)の平均計 210点以上 (R1合計 209.5点:国 71.2点、数69.0点、英 69.4点) イ・英語学力調査の結果から、 課題と経年値を把握し、指 導の見直しを図る (R1の1年:総合3級受 験レベル、聞く 3級レベル、 読む・話す 4級レベル、書 く 3級受験レベル) ウ・授業見学1人2回以上 (R1:6・10月授業週間で 見学[教員・保護者対象]) ・新採・10年研の研究授業 実施 (R1:10月授業週間で実 施) エ・学校教育自己診断「家庭学 習者の増加」平均24%以上 (R1平均 23.0% : 1年 20%、3年26%) ・学校教育自己診断「図書館 機能の充実」平均59%以上 (R1平均 63.5% : 1年 75%、3年52%) オ・学校教育自己診断「ICT機 器を活用した授業」平均 53%以上 (R1平均 50.0% : 1年 51%、3年49%)</p> <p>(2) ア・インターンシップ参加者</p>	

			<p>数：35名以上 (R1:35名) ・学校教育自己診断「実習授業満足度」平均74%以上 (R1平均71.0%：1年75%、3年67%) イ・ジュニアマイスター：R1取得者数からの増加 (R1:G3,S5,B4)</p>	
2 夢と志をもつ生徒の育成	<p>(1)豊かでたくましい人間性の育成 ア 人権教育の充実 イ 教育相談体制の充実 ウ マナー向上とルール厳守、問題行動の防止や遅刻件数・転退学率の減少 エ 情報モラルやセキュリティの啓発 オ 部活動の振興</p> <p>(2)生徒の自己実現の支援 ア 進路実現に向けた指導の充実 イ 進路希望の実現 ウ 離職率調査の実施 エ 大学進学者に対する学習状況調査の実施</p>	<p>(1) ア・人権講演会や人権HRを実施し、合理的配慮を踏まえた「ともに学び、ともに生きる」教育を推進し、共生社会を学ぶ。 イ・支援教育コーディネーターを中心に関係教員の連携を強化し、教員による相談対応の充実を図る。 ウ・集会時や日々の学校生活において啓発を行い、問題行動の防止に努める。 ・基本的な生活習慣を身に付けさせ、遅刻件数の減少を図る。 ・きめ細かな生徒指導、学習指導により転退学率の減少を図る。 エ・情報に関する授業での指導と、集会での講和や1年宿泊学習並びに各学年HRでの外部講師による啓発等を行う。 オ・部活動加入を促進し、「部活動に係る活動方針」に則った効率的な活動を図り、活気ある高校生活を送れるよう、環境整備や安全対策の強化を図る。</p> <p>(2) ア・生徒の自己実現に向けた取組みを支援するため、進路に関する指導の充実を図る。 ・就職一次合格率の向上を図る。 イ・就職希望者の進路実現に向け、きめ細かな就職指導を行う。 ・大学等進学希望者の進路実現に向け、きめ細かな進学指導を行う。 ウ・卒業3年後の離職率調査を継続し、就職指導に生かす。 エ・大学進学者への学習状況調査を継続実施し、進学指導に生かす。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断「人権教育等の充実度」平均50%以上 (R1平均55.5%：1年65%、3年46%) イ・学校教育自己診断「先生の相談対応」平均53%以上 (R1平均52.5%：1年59%、3年46%) ウ・問題行動指導：件数一桁台 (R1:21件・32名) ・遅刻件数：2,500件以下 (R1:2,750件) ・転退学率：2.0%以下 (R1:2.20%) エ・情報リテラシーの育成：各学年で実施 (R1:全学年実施) オ・部活動加入率：64%以上 (R1:62.4%)</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断「進路に関する行事の充実」平均68%以上 (R1平均65.0%：1年73%、3年57%) ・就職一次合格率：工科平均以上 (R1:86.8%、工科平均86.3%) イ・就職希望者内定率：100% (R1:就職100%) ・大学進学希望者実現度：100% (R1:進学92.7%) ウ・離職率：23.0%以下 (H30:29.4%、回収率99.1%) エ・大学進学者への調査、課題の分析 (R1回収率：34.8%) 課題数・物理・英語 優位性 工業の技術・知識、レポート作成、プレゼン能力</p>	
3 信頼される魅力ある学	<p>(1)広報活動と志願者確保 ア 広報活動の精査・充実 イ 地域との連携と学校活性化 ウ 志願者倍率の確保</p> <p>(2)工業高校生対象の大会等への参加と結果 ア ものづくり大会等への参加と結果</p>	<p>(1) ア・中学校訪問や出前授業、学校説明会の精査・充実を図る。 イ・地域の小・中学校との連携を深め、工科高校の理解と学校活性化を促進する。 ウ・様々な機会を捉えて学校PRを行い、入学者選抜の志願者を確保する。</p> <p>(2) ア・学習成果の場として、ものづくり大会やコンテスト等へ参加し、上位入賞をめざす。 イ・マイコンを利用したマイコンカーレース・</p>	<p>(1) ア・中学校訪問(R1:45校)、出前授業(R1:6校)、学校説明会(R1:24件)の精査・充実 イ・幼・小・中学校との連携：7回以上 (R1:7回) ウ・志願者倍率：1倍以上 (R1:[全体]1.08倍[総合]1.02倍、[工学]1.46倍)</p> <p>(2)</p>	

校づくり	<p>イ マイコン利用した大会への参加と結果</p> <p>(3)さらなる魅力づくりと学校組織の改善</p> <p>ア 学校課題の対応と迅速な実行</p> <p>イ 学校改編に向けた取り組み</p> <p>ウ 教職員の働き方改革の促進</p>	<p>ロボット相撲・パソコン甲子園等へ参加し、上位入賞をめざす。</p> <p>(3)</p> <p>ア・五役会(校長・教頭・首席・指導教諭・事務長)で学校課題を分析・検討し、解決に向けて迅速な対応を図る。</p> <p>イ・工科高校のさらなる魅力づくり・学習内容の充実を推進するため、PTを組織して今後の検討に入る。</p> <p>ウ・労働安全衛生委員会を活性化させ、教職員の働き方改革の促進を図り、時間外勤務時間の縮減を図る。</p>	<p>ア・ものづくり大会やコンテスト等の成果 (R1:旋盤が近畿優勝・全国出場、課題研究2作品が高校生技術・アイデアコンテスト全国大会で佳作を受賞)</p> <p>イ・マイコンカー、ロボット相撲・パソコン甲子園等の成果 (R1:マイコンカー全国出場、ロボット相撲が全国ベスト8、パソコン甲子園モバイル部門は本選進めず)</p> <p>(3)</p> <p>ア・五役会での課題解決に向けた対応</p> <p>イ・学校改革への取り組み:将来検討委員会等の回数 (R1:1回)</p> <p>ウ・労働安全衛生委員会の回数、時間外勤務時間の縮減、啓発 (R1:委員会7回、時間外80時間以上19名)</p>	
------	---	---	---	--